

磨いた技術で全国入賞 堀込さん



全国大会で入賞し、表彰状を手にする堀込さん

深川消防署妹背牛支署の堀込駿太さんが、8月に新潟市で開催された第54回全国消防救助技術大会の種目「ロープブリッジ渡過」に初出場し、100点満点で入賞を果たしました。同種目は、水平に張られた20メートルのロープを往復し、入賞には、標準所要時間の28秒以内に、減点なしで渡り切る事が求められます。

堀込さんは「消防への信頼や、火災予防への関心につながればうれしいです」と話しています。

教育委員の辞令交付 梶さんを再任



滝本町長から辞令を受け取る梶さん

妹背牛町教育委員会教育委員の辞令交付式が10月1日、町役場で行われ、梶哲也さんが再任されました。教育委員の任期は4年間です。

この日、滝本昇司町長から辞令を受け取った梶さんは、10月から3期目を迎えます。これまでの経験を生かし、子どもたちの健やかな成長を支え、町民が生涯にわたって学べる環境づくりに向け、その役割が期待されています。

学習発表会で練習の成果を披露



一輪車のパフォーマンスを繰り広げる3年生

「みんなで一生懸命頑張る、協力し合う学習発表会」をテーマに、妹背牛小学校の学習発表会が10月10日、同校体育館で開かれました。全校児童が劇や音楽などで日ごろの学習の成果を披露しました。

3年生は「ミニオンズショータイム・はちやめちや大作戦」と題し、一輪車や長縄跳び、ダンスなどを発表。練習を重ねてきた技を披露し、保護者らを楽しませました。

ふれあい広がる ボランティア祭り



多くの来場者が訪れ、ボランティアへの理解を深めたイベント会場

ボランティア活動や福祉への理解を深める「ボランティア祭り」（町社会福祉協議会主催）が10月10日、町民会館で開かれ、食事や縁日を楽しむ町民でにぎわいました。

会場では、すみっこファームの野菜を使ったカレーライスやおしるこが振る舞われたほか、縁日や工作体験、健康相談など多彩な催しを実施。活動紹介や福祉用具の展示もあり、来場者が身近な活動を知る機会となりました。

100歳の武田さん 麻雀も楽しみ



悠遊クラブの仲間と麻雀を楽しむ
武田さん

今年100歳を迎えた武田スエノさんが、悠遊クラブの仲間と麻雀を楽しんでいます。

武田さんは、大正15年生まれ。9月24日には、百歳の長寿を祝い、内閣総理大臣からお祝い状と記念品の伝達を受けました。

元気の秘訣は、何でも食べて、楽しく遊ぶこと。仲間との麻雀を楽しみながら、健やかな日々を送っています。

赤ちゃんとのふれあいで 命を身近に



赤ちゃんを抱きかかえる生徒

赤ちゃんとのふれあいを通して命や成長について学ぶ「いのちの授業」が10月2日、保健センターで行われました。

妹背牛中学校の3年生が、赤ちゃんの発達や接し方について講話を聞いた後、グループに分かれて親子と交流。

生後10カ月～1歳3カ月の赤ちゃんを抱きかかえながら、母親に妊娠・出産に関する質問をしました。

もせうしクラフトビール、誕生



爽やかな味わいが楽しめる2種類の「もせうしクラフトビール」

町内産アップルミントを使った「もせうしクラフトビール」が9月19日に発売されました。

爽やかなミントの香りが広がる「アップルミント」と、すっきりとしたのどごしが楽しめる「ピルスナー」の2種類。

水色と薄紫色が目を引く缶のラベルには、北海道の地図と妹背牛町の位置が描かれています。

妹背牛温泉ペル売店、いそがわ商店、堀口商店で販売しており、価格は各店共通で税込み1本770円です。

懐かしい名曲と笑いのステージ



懐かしの名曲を披露する出演者

往年の名曲を楽しむ「ありがとうコンサート」が10月4日、町民会館で開かれ、約200人が来場しました。

創立3周年を迎えた町内の「アイデアル」が主催し、町社会福祉協議会が後援しました。

声楽家の林純子さんやRiekoさん、歌劇団アン・ディ・ムジック・カンパニーのメンバーが出演。地元の「妹背牛三人娘」も登場し、多彩なステージを繰り上げました。

新米に舌鼓、妹背牛の秋を満喫



食事をしながら、地元の人たちとの交流を楽しむ参加者と佐藤さん（左から3人目）

北空知の食と文化を巡る「北空知ツアー 食と、森と、手しごと。」が9月19日に行われました。

元HTBアナウンサーの佐藤麻美さんがガイドを務め、札幌圏からのツアー客が来町。遊水公園うららでは、地元の人たちと交流しながら、新米や浅漬けの素「米子ちゃん」を使った料理を味わいました。

この日発売のクラフトビールがお披露目されたほか、大黒屋菓子舗に出向いた一行は、スイーツの品定めも楽しみました。

中学生が職場体験で職業観を養う



入居者の話に耳を傾ける男子生徒

妹背牛中学校の2年生が10月2日、町内の10事業所に分かれ、職場体験をしました。職業観を養うキャリア教育の一環で、生徒たちは将来の進路選択に役立てました。

このうち、グループホーム「べにばら妹背牛」では、男子生徒が職員から施設内や普段の仕事内容について説明を受けました。

入居者のお話を聞いたり、一緒にレクリエーションやお菓子作りを楽しんだりして、交流を深めました。

妹背牛の仕事と暮らし 大学生が見学



職員の説明を受け、郷土館を見学する大学生

大学生を対象とした工場見学バスツアーが9月18、19の両日、町内で行われました。

佐藤精工株式会社企画。初日、札幌と小樽の大学に通う学生7人は役場を訪れ、北口信彦副町長から町の特産品や移住促進の取り組みなどについて説明を受けました。

続いて、学生たちはカーリングホールと郷土館を見学。各施設の概要や地域の歴史にも触れ、妹背牛のスポーツや文化、暮らしについて理解を深めました。

認知症への理解を広めるポスター作り



夢や目標を記したポスターを作る参加者たち

世界アルツハイマーデー（9月21日）にちなみ、認知症への理解を呼びかけるポスター作りが9月にわかち愛もせうしひろばで行われ、認知症に関心のある8人が参加しました。

「忘れても笑顔で暮らせる街づくり」の言葉を添えたポスターには、参加者がそれぞれの夢や目標を記入。もみじ型の色紙に「いつまでも健康で」「毎日楽しく」など思いをつづり、折り紙のリスやキノコで彩りました。完成したポスターは、町内2か所に掲示されました。